Lectotypus. Darjeeling, 7300 ft. (C.B. Clarke, no. 26998, Aug. 15, 1875) in Herb. Kew.

*　*　*　*　*

本報ではベンケイソウ属，ツルリンドウ属，テンナンショウ属，ジャノヒゲ属の新種と新組合せを発表した。日本の種類に関係の深いマンネングサ類はこれまでヒマラヤからは確実な報告がなかったが，ここに記したシッキム産のものはヒメレンゲにきわめて近縁なものである。また日本でもヒマラヤでもツルリンドウ類の果実は濃紅色が普通であるが，1963 年秋の東大の第 2 次インド植物調査で果実が真黒に熟す新種を採集した。テンナンショウ属の新種は概形シマテンナンショウに似ているが，花序の先に全く附属体をもたない非常に変ったものである。

○高等植物分布資料 (36) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (36)

○トダイアカバナ *Epilobium formosanum* Masamune は，四国山地，安芸三段峡，紀伊熊野川と東漸し，信濃戸台川に終っている。1962年秋，これを相模丹沢山塊の中津川の一支流，塩水川上流の海抜 700 m 附近の河床礫地に得た。尚トダイアカバナの和名の基となった戸台川は，従来本種を多産することで知られていたが，1962年の所見によれば，1961 年 6 月の集中豪雨による出水で，戸台川の河床は土砂による堆積著しく，殆んど無植生の状態で全く認めることが出来なかった。　(大場達之)

○ミドリヨウラク *Polygonatum inflatum* Komarov の主分布域は，満州・朝鮮にあり，我国では九州，四国(阿波：木沢村)に点生するに過ぎない。1962 年 5 月，備後帝釈峡の石灰岩地の広葉樹林下に本種と思われるものを得たが，花が未熟であったので，同地の積山澄晃氏にお願いして，よく開花した標本を得，ミドリヨウラクと同定する事が出来た。また 1963 年秋，植物学会大会の見学旅行に参加して再度同地で確認した。

(横浜国立大学学芸学部，大場達之)

○タチデンダ *Polystichum deltodon* Diels は，中国大陸と日本の石灰岩地帯に産する希少種のひとつである。長崎県西彼杵郡西海村に小区域ながら石灰岩質砂岩の分布がある。この岩壁に，2 箇所にわたってタチデンダのみごとな発育がみられる。この石灰岩質砂岩は，第三紀前半にできたもので，多量の石灰藻と *Ostrea* などの貝化石を含んでいる。この岩石を顕微鏡観測すれば，絹雲母・緑泥石・ザクロ石が，石英・長石とともに砂となり，その間を，石灰藻や方解石の破片が埋めている。試みにその破片を塩酸処理してみれば，石灰分の量は 25～80% である。従って，この岩石は岩石学的には石灰岩質砂岩であるが，実質的には石灰岩と大差はないといえよう。標本は奥山春季氏の原色野外植物図譜 (6) の資料として国立科学博物館に寄贈した。　(外山三郎)